

WEEKLY SIGNAL

平成30年8月10日(金) 1436号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	8/13(月)	8/14(火)	8/15(水)	8/16(木)	8/17(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 200	+ 1,000	トシ	トシ	トシ
財政他	△ 8,300	△ 8,000	+ 85,000	+ 1,000	△ 16,000
資金需給	△ 8,100	△ 7,000	+ 85,000	+ 1,000	△ 16,000
主な要因	国庫短期証券 発行・償還(3M)	源泉税揚げ	年金定時払い 国債償還(2年)		国債発行(5年)
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,600 CP等買入 △ 200 国債補充供給 + 1,900				
オペスタート	国債買入 + 8,400 共通担保(全店) + 2,200				
(日本)		営業毎旬報告(8月10日現在) 日銀が保有する国債の銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額			
(海外)		欧 圏工業生産(6月) 欧 圏GDP(4-6月、改定値) 独 GDP(4-6月、速報値)	米 小売売上高(7月) 米 工業生産(7月) 米 NAHB住宅市場指数(8月)	米 住宅着工件数(7月) 米 新規失業保険申請件数 (8月11日終了週)	米 景気先行指標総合指数(7月) 米 ミシガン大学消費者マインド指数 (8月、速報値) 欧 圏CPI(7月、改定値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.050 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.050 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.030 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、384兆6,800億円から始まった。その後は、国庫短期証券・国債買入オペを主因に385兆3,700億円まで増加したが、10日には国庫短期証券6ヶ月物と30年利付国債の発行により同残高は減少し、384兆4,300億円となった。無担保コールON物は、週末にかけて徐々にビッドが厚くなる展開となった。同加重平均金利は週初△0.071%から始まったが、その後は、基礎残高・マクロ加算残高の調整を目的とした調達ニーズの高まりから上昇基調を辿り、週末となる10日には△0.047%となった。ターム物は、1~2W物を中心に△0.035~△0.03%での出合がみられた。内閣府が10日発表した4~6月期の国内総生産(GDP)速報値によると、実質国内総生産は前期比0.5%増、年率換算では1.9%増となった。プラス成長は2四半期ぶりとなり、個人消費や設備投資などの内需が堅調な伸びを示した。来週の主な予定は、海外ではユーロ圏GDP(4~6月、改定値)(14日)、米小売売上高(15日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.001 ~ 0.000
TDB 3M	△0.200 ~ △0.150
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約8,500億円で、週間償還総額の約8,000億円からやや増加した。発行市場は、5・10日スタートで案件が膨らんだものの、総じて落ち着いたマーケットであった。週末の発行市場残高は19兆5,000億円程度と、引き続き高水準を維持している。発行レートは、市場残高の増加に伴い、発行残高の多い銘柄を中心に上昇地合いとなっている。7日にCP等買入オペが2,000億円オファーされた。結果は、按分落札レート△0.001%と前回オペと同水準となった。来週の償還総額は、3,700億円程度となっている。事業法人の多くが夏季休暇中という事もあり、閑散なマーケットが予想される。発行レートは、発行が少ないこともあり横這い推移であろう。14日に、CP等買入オペが2,000億円程度オファーされる予定。

<TDB>

9日に行われた6M775回債は、最高落札レート△0.1451%(前回債△0.1367%)、平均落札レート△0.1549%(同△0.1407%)と前回債より堅調な結果。10日に行われた3M776回債も最高落札レート△0.1543%(前回債△0.1423%)、平均落札レート△0.1635%(同△0.1587%)と前回債からマイナス幅を拡大した。週末のセカンダリー市場は、新発6M物が△0.175~0.170%程度と入札水準から大きく買い進まれる一方、新発3Mはやや調整の売りも見られ、出合水準は△0.16%前後と上値の重い展開となった。来週は16日に1Y、17日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGCは週前半△0.10%~△0.11%で推移し、9日受渡しでは△0.115%~△0.12%まで低下。週後半は短国の発行が続き、△0.095%~△0.10%まで上昇した。SC取引では10年351回債のbidが多く、週前半は△0.10%台半ば~後半。8日の国債買入オペ後△0.20%台半ば~△0.30%台前半の出合いが一部見られた。5年136回債は、週央以降△0.30%台後半~△0.40%台半ばで多く取引された。その他2年388・389・390・391回債、5年133・134・135回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350回債、20年162・163・164・165回債、30年57・58・59回債、40年9・10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。